

## 1

## 花王株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う 背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社のライフサイクルアセスメント（LCA）を実施し、ホットスポットがScope3であることが判明。その結果を基に、2009年に「花王環境宣言」を発表し、製品ライフサイクル全体のCO2排出量および水使用量を削減する目標を公表。</li> <li>● 上記目標の進捗状況を把握し、削減活動を推進するため、個別製品並びに全社のライフサイクルCO2排出量、使用段階の水使用量を算定している。</li> </ul>
② 算定結果の 活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品開発において、LCAを活用している。</li> <li>● “いっしょにe c o”マーク（製品環境ラベル）の表示基準の要件にライフサイクルCO2排出量の低減を定めている。</li> <li>● 顧客からの個別商品の環境負荷の問い合わせ時に利用。</li> <li>● サステナビリティデータブックで上記目標進捗状況を社会に報告、花王エコラボミュージアム、各種環境展示会での活動紹介、および各種アンケートへの回答対応。</li> </ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バリューチェーンに渡り環境負荷を「見える化」することで、適切な地球環境保全につなげることができる。ホットスポットを顕在化することにより、有効な対策が可能。</li> <li>● リスクの回避、事業機会の創出にもつながる。</li> <li>● 解析の結果、使用段階の負荷が大きいことが判明。使用段階の環境負荷を低減できる製品を開発・提供している。このような、お客さまと“いっしょにe c o”に加え、ビジネスパートナーや社会と“いっしょにe c o”を掲げ、ライフサイクル視点の取組みの展開につなげている。</li> </ul>
④ 社内の 算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別製品及び全社のL C Iデータを計算する社内システムにより算定。約1万の製品データがデータベース化されており、社内各種データベースとのリンクにより登録作業の効率化を図っている。</li> <li>● 製品開発担当者は上記システムの保有データを利用して開発製品のL C Aを実施し、製品開発活動に活用している。</li> </ul>

# 2

# 花王株式会社

各社の考え方	
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料調達段階については、製品のコンパクト化、容器の軽量化、詰替え化による材料節減等に対応。“いっしょにe c o”の一環で、サプライヤーとの協働取組みの重要性も認識。</li> <li>● 製造段階については、工場・事業場の省エネ等各種削減活動を実施。</li> <li>● 使用段階については、使用段階の負荷を低減する製品を開発・提供することで対応。例えば1回すすぎが可能な衣料用洗剤の提供。</li> <li>● 廃棄段階については、容器の軽量化、つめかえ化による材料削減等に加え、バイオポリエチレン導入等を進めている。</li> </ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会全体の課題として、誰もが容易にL C Aを実施できるよう、計算ルールやデータベースの整備、計算ツールの普及等が挙げられる。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>37% 7% 2% 41% 13%</p> <p>原材料調達 ▶ 開発・生産・販売 ▶ 輸送 ▶ 使用 ▶ 廃棄・リサイクル</p> </div>
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライヤーに対し、主な原材料のL C Iデータの提供をお願いし、L C Iデータの整備・精緻化に努めている。</li> </ul>

## 3

## 花王株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2021年1月～2021年12月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料投入量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライヤー調査結果、外部データベース、文献値、産連表の原単位からの換算値</li> </ul>
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 投資額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）</li> </ul>
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購入量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）</li> </ul>
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料投入量</li> <li>● 製品量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ法・温対法の算定・報告・公表制度の電気・燃料に対する排出係数、外部データベース等</li> </ul>
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 排出重量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）</li> </ul>
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）</li> </ul>

## 4

## 花王株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2021年1月～2021年12月	
	活動量	原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 社員数	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」(環境省、経済産業省)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● スcope1,2に含む	●
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 輸送製品量	● 花王算定
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 販売製品量	● 花王算定
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 独自シナリオ設定	● 省エネ法・温対法の算定・報告・公表制度の電気・燃料に対する排出係数、外部データベース等
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 独自シナリオ設定	● 外部データベース、文献値
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 該当活動なし	●
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当活動なし	●
カテゴリ15「投資」	● 投資金額(持ち株分を対象)	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」(環境省、経済産業省)
「その他」	●	●

# 5

# 花王株式会社

## サプライチェーン排出量算定結果

